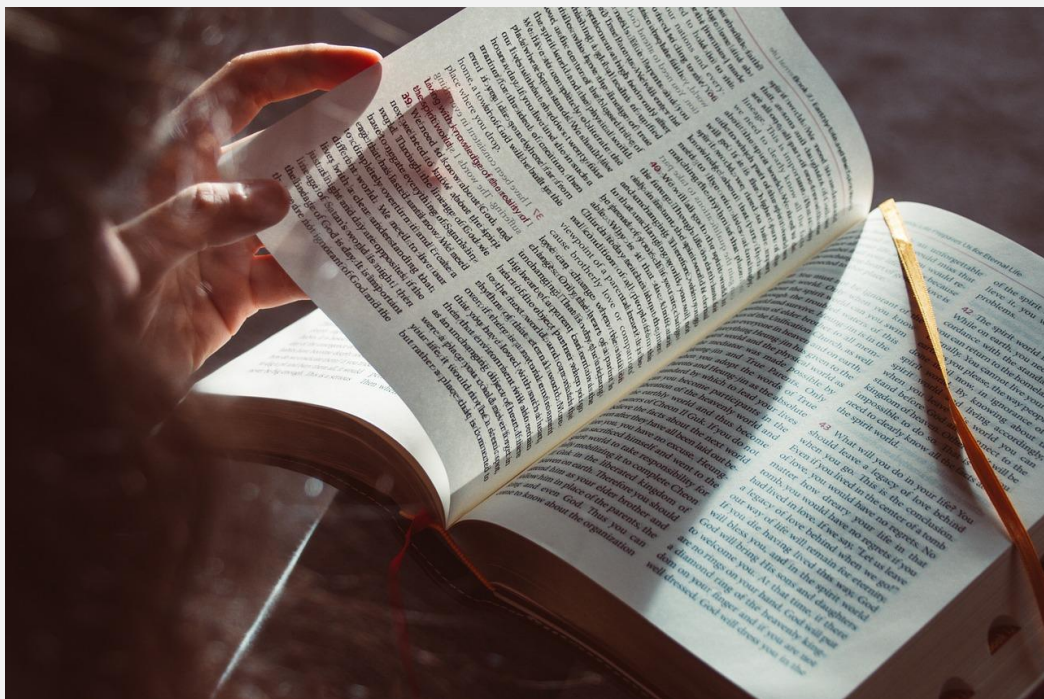


2024年度

# 君に薦める一冊の本



## 「君に薦める一冊の本」とは

先生方から学生の皆さんへの推薦図書です。先生方の心の琴線に触れた図書や学生生活を送る上で役立つ図書、教養を深める図書など今年度も多数の図書を推薦していただきました。

勉強やクラブ・サークル活動など、忙しい学生生活の合間にぜひ手に取って読んでみてください。

皆さんの豊かな人格形成に役立つことを願っています。

ご推薦いただいた先生

建築学科	水島あかね 先生
電子情報システム工学科	廣芝 伸哉 先生
応用化学科	村田 理尚 先生
環境工学科	日下部武敏 先生
環境工学科	盧 韻琴 先生
一般教育科	神代 真也 先生
総合人間学系教室	大塚 生子 先生
総合人間学系教室	尾田 知子 先生
総合人間学系教室	川那邊依奈 先生
ナノ材料マイクロデバイス研究センター	和田 英男 先生
空間デザイン学科	村尾 純子 先生
データサイエンス学科	濱田 悦生 先生
情報知能学科	木村 哲士 先生
情報メディア学科	田岡 育恵 先生
教職教室	武藤 寿彰 先生

『ぱびろにくす』にご寄稿いただいた先生

123号	
電気電子システム工学科	見市 知昭 先生
124号	
都市デザイン工学科	日置 和昭 先生
125号	
環境工学科	高山 成 先生

## 建築学科 水島 あかね 先生

NO  
PICTURE

『風景をつくるごはんー都市と農村の真に幸せな関係とは』  
真田純子著／農山漁村文化協会

人々の長年の営みにより生み出された農村風景。その風景に対して良い悪い、美しいなどの価値判断することに景観工学を専門とする著者は疑問を持つ。消費者が多く住む都市との関係において成り立つ今日の農村の風景は、効率化重視の価値観を持つ消費者により生み出されたものではないか。「風景をつくるごはん」を食べることにより、農村を取り巻く課題や社会のシステムなどが見えてくる。理想を語る前に自身の行動を変えてみようと思える一冊。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉610.4||S 91241003 〈梅田分館〉610.4||S 97240335 〈枚方分館〉610.4||S 98240623

NO  
PICTURE

『赤と青のガウン オックスフォード留学記』

彬子女王著／PHP文庫

博士号は研究者のパスポートといわれている。日本の女性皇族ではじめて英国オックスフォード大学で博士号（D.Phil.）を取得された彬子女王の五年間の留学記である。

みずみずしい文章でつづられ、大学院生としての視点で指導教官との関係や研究上の悩みといったエピソードには共感でき、おそれながら彬子女王に対し親しみを感じさせられる。このような庶民的な身近なエピソードがある一方で、皇族ならではのエリザベス女王陛下との宮殿での会合や警備の皇宮警察間とのやり取りなどなど、庶民が味わうことのない非日常が織り交ぜられた素晴らしい体験記である。

## 応用化学科 村田 理尚 先生

NO  
PICTURE

### 『走ることにについて語るときに僕の語ること』

村上春樹著／文春文庫

走ることを趣味にしていなくても読んでほしい本です。村上春樹氏の仕事や趣味、人生に対する考え方が述べられているので、人生の励み・道しるべとなることは間違いありません。

私（村田）は、この本をアメリカ・シアトルでの講演に向かう飛行機の中で、緊張をほぐすヒントを求める思いで読みました。村上氏のような世界的に著名な小説家でも、英語の講演ではセリフを暗記するようなことが書かれており、勇気をもらうことができました。トライアスロンに挑戦した経験談なども励みになりました。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉914.6||M 10803672 〈梅田分館〉914.6||M 97240100 〈枚方分館〉080||B 98240236

## 環境工学科 日下部 武敏 先生

NO  
PICTURE

### 『喜嶋先生の静かな世界』

森博嗣著／講談社文庫

本書は、喜嶋先生とその弟子の深い師弟関係を描いた物語です。著者の緻密な描写と独特の視点が織りなす世界観は、理系の知識と学問・研究のドラマが見事に融合しています。内面の葛藤や成長、静かに流れる時間の中での繊細な感情の動きを通じて、読者は感動と共感を覚えることでしょう。これから研究室選びをする学生さんにお薦めです。静かな世界に隠された真実と、人間の温かさを感じられる一冊を、ぜひ手に取ってみてください。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉913.6||M 91240513 〈梅田分館〉913.6||M 97240099 〈枚方分館〉080||K 98240234

## 環境工学科 盧 韻琴 先生

NO  
PICTURE

### 『伝え方図鑑』

井手やすたか著／SBクリエイティブ

2024年に新たに出版されたこの一冊は、伝え方を磨くためのヒントが詰まっています。

コミュニケーション能力は、研究発表だけでなく、社会に出た際にも非常に重要なスキルです。自分の考えや想いをしっかりと相手に伝えたい人にお勧めします。実は、私自身もまだまだ勉強中です。

この本は、これからの大学生活や就職活動で、きっと大きな力になると思います。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉336.49||I 91240692 〈梅田分館〉336.49||I 97240149 〈枚方分館〉336.49||I 98240361

## 一般教育科 神代 真也 先生

NO  
PICTURE

### 『石取りゲームの数学:ゲームと代数の不思議な関係』 佐藤文広著／数学書房

「数学」と聞くと、複雑な計算や無機質な証明を思い浮かべる人が多いかもしれません。しかし、この本は、数学がそれだけではないことを教えてくれます。テーマは「ゲームの必勝法」。二人が交互に石を取る、一見単純なゲームですが、実はそこに必勝法が存在します。そして、その背後には、驚くほど深い数学的思考が隠されているのです。この本を通じて、数学の新たな魅力に触れてみてください。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉410.9||S 12400611 〈梅田分館〉410.9||S 72400069 〈枚方分館〉410.79||S 82400180

# 総合人間学系教室 大塚 生子 先生

NO  
PICTURE

『クマにあったらどうするか:アイヌ民族最後の狩人 姉崎等』  
姉崎等(語り手) 片山龍峯(聞き書き)/ちくま文庫

本書は、かつて60頭ものクマを仕留めたというアイヌの狩人へのインタビューです。みなさんには「クマにあったらどうするか」についての実践的な対処法よりもむしろ、彼の語りの中からアイヌの生活や価値観を読み取って学んでほしいと思います。価値観や世界観が異なればクマも「害獣」になったり「神(カムイ)」になったりするように、どんな物事も見方によってその姿を変えます。

ちなみに本書を読む前に、「あなたがクマにあったらどうするか」を以下の4つから考えてみてください。

- ①死んだふりをする
- ②木に登る
- ③リュックを置いて逃げる
- ④腰を抜かす

# 総合人間学系教室 尾田 知子 先生

NO  
PICTURE

## 『華氏451度 新訳版』

レイ・ブラッドベリ著 伊藤典夫 小野田和子訳／早川書房

突然ですが、英単語クイズです。firefighterの日本語訳は何でしょうか？ 現実世界における正解はもちろん「消防士」ですね。本書の世界では、firefighter (fireman)の仕事は「火」を「消す」ことではありません。本書におけるfirefighter(fireman)は「昇火士」、つまり、本に向かって火炎放射し、「火」を立ち「昇」らせる職業を意味します。本の所持は大罪であり、万一見つかれば通報され、昇火士によって家ごと炎で焼かれます。本の主たる素材である紙が自然発火する温度が、本書のタイトル「華氏451度（≒摂氏233度）」となっています。

アンドロイドや模造動物、地球滅亡や火星への移住などのテーマが前面に出てくるような、ハードなSF小説は苦手…という人もご安心を。本書は約70年前に出版されたにもかかわらず、現代社会の科学技術と人間の関わりに生じている諸問題を予言していたかのような、先見の明のあるアメリカ屈指のSF小説です。けれども、舞台設定はそこまで近未来的すぎず（模造動物は若干登場しますが）、一貫して主人公の昇火士の目線から語られるストーリーも分かりやすいです。物語が進むにつれて、本に対する主人公の心境が変化していくさまが、読みやすい現代語の新訳であざやかに描かれています。そのような比較的「ソフトな」SF小説である本書を、ぜひ手に取ってみてください。そして、本書の小説世界同様、現実世界においてもなお、人々の心を惹きつけてやまない「紙の本」の魅力について、少しでも考えてみていただければ嬉しいです。

## 総合人間学系教室 川那邊 依奈 先生

NO  
PICTURE

### 『火曜クラブ』

アガサ・クリスティー著 中村妙子訳／早川書房

ミステリー小説が好きな人にお薦めの一冊です。

『火曜クラブ』（1932年）は、アガサ・クリスティーの短篇集で、13の短篇が収録されています。クリスティーは薬剤師として働いた経験があり、「青いゼラニウム」、「毒草」など、植物と薬品の知識を生かした作品を多く書いています。

ミス・マープルと個性豊かな友人たちが、未解決事件の真相を解き明かしていくという形式で、会話文の巧みさ、人間心理の深さが魅力的な作品です。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉933.7||C 91240492 〈梅田分館〉933.7||C 97240102 〈枚方分館〉080|H 98030627

## ナノ材料マイクロデバイス研究センター 和田 英男 先生

NO  
PICTURE

『素人のように考え、玄人として実行する：問題解決のメタ技術』  
金出武雄著／PHP研究所

ロボット工学の世界的権威である、カーネギーメロン大学教授金出先生の名著であり、研究者としての考え方の基本については是非とも参考にしてみたい本です。

研究を構想し成功を収めるために役立つ考え方がこの本には書かれている気がします。自分も金出先生に日米共同研究で指南いただいた経験から、先生のこの本を時々読み返して教育研究に反映しています。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉141.5||K 91030623 〈梅田分館〉141.5||K 80301711 〈枚方分館〉141.5||K 80402250

## 空間デザイン学科 村尾 純子 先生

NO  
PICTURE

### 『嫌われる勇気－自己啓発の源流「アドラー」の教え』

岸見一郎 古賀史健著／ダイヤモンド社

過去のあの出来事がトラウマになっているから、今の私は不幸なんだ…って思っていますか？それは、過去の原因が、今のあなたを支配している状態。運命に決定された不幸な私。この考え方をしている限りは、あなたの不幸は永遠に続きます。でもね、あるんですよ！抜け道が！そこのあなた。今のあなたが不幸なのは、あなたが「不幸であること」を選んでいるだけなんです。人生はいつでも、どのタイミングでも「選びなおせる」んです。

心理学者アルフレッド・アドラーはトラウマを真っ向から否定し、人間が幸福に生きる道を、人類の前に横たわる無限の可能性の存在を示してくれました。不幸で居続けるのは、幸せになることを選ぶよりも簡単です。なぜなら馴染んでいる状態だからエネルギーが要らない。幸せになるには勇気が必要だから。

運が悪い、なんだかぼっとしない、不幸だと感じる、憂鬱である、そんなあなたにオススメの一冊はアドラーの教えを解説した『嫌われる勇気』。「まさか自分が自分で不幸であることを選んでいるなんて…」という驚愕の事実直面しますよ。

## データサイエンス学科 濱田 悦生 先生

NO  
PICTURE

### 『私の幸福論』

福田恆存著／ちくま文庫

最近のメディア等で流通している当たり障りのない、主張にならないような主張に飽き飽きしている学生さんは、この本で筆者の主張に耳を傾けてみましょう。自分が自分のために頑張れば幸せになれるのか、逆に自分が人のために頑張れば幸せになれるのか、また女性の幸せと男性の幸せは同じか等が、話し言葉で書かれていますので、非常に読みやすい本です。大学生として人生を考える材料の一つになるでしょう。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉914.6||F 91240512 〈梅田分館〉914.6||F 97240098 〈枚方分館〉080||C 98240232

NO  
PICTURE

『五分後の世界』  
村上龍著／幻冬舎文庫

私は登場人物の心理描写や潮流が「穏やかに表現」される文体に慣れ親しんでいましたが、この「五分後の世界」を読んだ時には衝撃を受けました。主人公が急に理解不能な状況に置かれ、それが絶望的な世界であることが「強烈に描写」される文体は、それまで私が読んできた書籍にはないものでした。図や絵で表現していないのに目の前の事象が目には浮かぶようでした。内容は最後までかなり重い物語になっていますが、困難の中でもしぶとく生きていく様を見せつけてくれた書籍でした。このような「物事や生き様を考えさせられる」本を大学生のうちに数冊程度読みこんで手元に置いておくのをお勧めします。

NO  
PICTURE

『口訳 古事記』

町田康著／講談社

『古事記』と聞いて、読むのは難しいと思う人が多いのではないのでしょうか。しかし、この『口訳 古事記』では、神々が「マジですか」、「やばいっすね」のような言葉で話していて、ストーリーの展開もおもしろく、そこそこでガハガハ笑えます。楽しみながら、イザナミとイザナギ、天照大御神、スサノオと八岐大蛇（ヤマタノオロチ）、大国主神、因幡の白うさぎなど、どこかで聞いたことのある物語を知ることができます。名前のよく似た登場人物が沢山いて、人物関係を前のページに戻って確認しなければならないこともありますが、そういったことも含めて楽しめます。

## 教職教室 武藤 寿彰 先生

NO  
PICTURE

### 『まんがで知る未来への学び』

前田康裕著／さくら社

元小学校教員の前田康裕先生（熊本大）が書かれている本（マンガ）で、これまでに9冊発刊されている中の4冊目です。

今回の主人公は中学2年担任で美術科教師の桜山さやか(32)先生と、白川大学教職大学院生の黒髪森炎(23)さん。人口減少に悩む地域をどう再興・活性化していくのかについて、大学院生、生徒がそれぞれの持ち味を生かして、共に悩み、学び、考え、行動していく物語です。

各章末では「学ぶ意義の明確化」「新しい時代に求められる資質・能力」など、今の教育の在り方や課題について解説があり、参考になる今話題の著書も多数紹介されています。教育問題を学校関係者だけで語ってはいけないことや、学校は今でも希望を持てる場であることを再認識させてくれます。

教職課程を選択している皆さんはもちろんのこと、教育に少しでも興味のある方はぜひ手に取ってほしいと思います。一冊読んだら、シリーズ9冊を一気に読みたくなること間違いなしです。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉370.4||M||1 91220179 370.4||M||2 91220180 370.4||M||3 91221756

〈梅田分館〉370.4||M||1 97230021 370.4||M||2 97230022 370.4||M||3 97230023

〈枚方分館〉370.4||M||1 98240237 370.4||M||2 98240238 370.4||M||3 98240239

NO  
PICTURE

## 『電気工学ハンドブック(第7版)』 一般社団法人電気学会編／オーム社

ばびろにくすは図書館が好きな人が読まれていると思います。私も図書館が好きです。ただ実は本はあまり読みません。読み始めると夢中になるので、それを抑制しているというのが原因のような気がします。すみません、只の言い訳です。さて、そんな私が何の本を薦めるのかというと〇〇ハンドブックという図書になります。ハンドブックとは便覧のような必要な事項を簡潔に説明した参考図書的一种という意味がありますが、百科事典と変わらない巨大なものもあり、今回は後者のものとなります。電気系の分野であれば、電気工学ハンドブックというものがあり、他の分野でも各種ハンドブックが存在しています。

私が最初にハンドブックと出会ったのは、大学院修士課程の頃です。自分の研究で用いている放電プラズマがどういうものなのかを調べるために、大学図書館に籠り、高電圧・放電工学の専門書を読み漁っていました。この手の専門書は数多くあるものの、調べたい内容が書かれていない、説明の内容が本ごとに微妙に異なっているなどといった具合で、何が正解なのかもわからなくなるという事態に陥りました。そんな時、偶然見つけたのが放電ハンドブックでした（一般的にハンドブックは専門書コーナー以外のところに置かれています）。

手に取ったハンドブックは20数年前の当時では新書籍でした。多くの専門家が集まって、十分な議論をしたうえで執筆していったのでしょうか。専門書ではカットされていた内容がこれでもかと書かれていて、夢中になってページをめくった記憶が今でも残っています。また体系的にまとめられているので、全体を把握する際に有効です。ただ、結局自分の研究で用いている放電プラズマが何に分類されるのかはよくわからなかったのですが、それでも内容が面白かったので何度も図書館に通って読んでいました（禁帯出だったので）。

放電ハンドブックは残念ながら1998年発行となっており、その後も改訂版は出ていませんので、特に本学科の学生には電気工学ハンドブック（第7版）をお薦めしたいと思います。謳い文句がまた凄くて、「電気工学分野の金字塔」です。放電ハンドブックほどマニアックではないですが、幅広い電気工学分野を細分化して、それぞれを詳しく説明しています（全47編です）。電池や家電の話なども専門書よりも詳しく書いている部分があるので、手元にある教科書では物足りない人は手に取ってみてはいかがでしょうか。数式以外の部分も多く読み物としても優れていると思います。情報社会で何でもネットで入手できる時代となりましたが、百科事典並みの膨大な情報ともなると手元で見た方が快適ですよね。他の学科の学生さんも自身の分野にあったハンドブックを探してみてください。専門分野の理解がより深まると思います。

※図書館報『ぱびろにくす』123号にご寄稿いただきました。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉540.36||D 11301060

〈梅田分館〉540.36||D 71607071

〈枚方分館〉R540.36||D 82400005

# 都市デザイン工学科 日置 和昭 先生

NO  
PICTURE

『Intensified Sediment Disasters in Japan : The 2011 Kii Peninsula Torrential Rain Disasters』  
Ryoichi Fukagawa 編／CRC Press

私が過去に読み込んだ本は、専門書と漫画を除けば数冊しかありませんが、小学生のときに読み込んだ山岡荘八の『織田信長』（株式会社講談社）は印象深いです。私は小学生の頃から信長マニアで、これまでに単行本やテレビドラマ、さらに映画などで様々な信長に出会ってきましたが、私の理想の信長像は山岡荘八によって描かれた信長です。本書は、全五巻（無門三略の巻、桶狭間の巻、侵略怒濤の巻、天下布武の巻、本能寺の巻）から成り、信長と秀吉、そして濃姫の関係性が心地よく描かれています。特に濃姫はとても小賢しく描かれており、私は濃姫に恋心を抱いたのをよく憶えています。そのため、10代の頃は理想の女性像を問われると“濃姫”と即答し、“濃姫のような女性と結婚するんだ”と友人たちに宣言していたほどです。しかし、それから40年ほど経ちましたが、濃姫のような女性是我的目の前には現れず、未だに独身を貫いています（笑）。

冗談はさておき、私が今回『君に薦める一冊の本』は、深川良一（立命館大学名誉教授）編集の『Intensified Sediment Disasters in Japan : The 2011 Kii Peninsula Torrential Rain Disasters』（CRC Press）です。2011年、台風12号の記録的な豪雨により、紀伊半島の広域に甚大な土砂災害・水害がもたらされました（紀伊半島大水害）。その後、（公社）地盤工学会関西支部、（一社）日本応用地質学会、関西地質調査業協会、中部地質調査業協会の4学協会により、『「想定外」豪雨による地盤災害への対応を考える調査研究委員会』が設置され、被害実態の把握、災害メカニズムの解明、避難・防災対策の提案などを目指して活発な調査研究活動が展開されました。本書は、同委員会の活動成果を纏めたもので、私は8章『Disaster-Prevention and Mitigation Measures Following the Kii Peninsula Disaster』を執筆しました。

本章では、紀伊半島大水害を契機に行われるようになった、主にソフトウェア対策を中心とした防災・減災の取り組み事例（地方自治体や道路・鉄道事業者の取り組み事例）について纏めました。この中で私は図々しくも奈良県十津川村と大阪工業大学が連携協定を締結し、私の研究室（地盤防災研究室）が中心となって「豪雨時深層崩壊危険度の監視活動」に取り組んでいることを紹介しています。

近年、世界各地で豪雨を起因とする大規模な土砂災害・河川災害が発生しており、自然災害外力が増大していることを実感させられます。本書を通じて、同委員会の活動成果が世界中で共有され、防災・減災力の体系的かつ相乗的な向上につながることを期待しています。

※図書館報『ぱびろにくす』124号にご寄稿いただきました。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉369.3||F 12400114

〈梅田分館〉369.3||F 72400017

〈枚方分館〉369.3||F 82400061

# 環境工学科 高山 成 先生

NO  
PICTURE

## 『月と六ペンス』 サマセット・モーム著 金原瑞人訳／新潮文庫

モームはイギリスの小説家・劇作家である。聞くところによると大変な皮肉屋であつたらしい。そんな彼が1919年に発表した「月と六ペンス」は空前のベストセラーとなった代表作である。実は工大図書館からこの原稿依頼を受けた時かなり悩んだ。私にも皆さん同様若く多感な時代があり、陰鬱な受験勉強から解放され晴れて大学に入学したら読んでみたい本があつた。実際、無事大学に入学して図書館でお目当ての小説を見つけ、借りて読んだ時の解放感と感動といったらそれはもう格別だつた。しかし、具体的にその時に読んだ小説の何に若い私は心揺さぶられたのだろうか？今となっては記憶も断片的で上手く説明できそうにない。そんなおじさんが大上段から「君に薦める・・・」なんて書くのもひどく恥ずかしい。そういう訳でここはわが息子殿（大学3年生）に選書を頼むことにしたのだが、彼が選んだのはなんと100年以上前に書かれた本書であつた。

平凡な株式仲買人チャールズ・ストリックランドは絵を描くことへの狂気的な執着に取り憑かれ、40歳になって妻子や安定した生活それまでの全てを捨てる。物語は若い小説家である「私」がそんなストリックランドの一生に様々なきっかけで触れ、断片的な情報から人間としての彼を理解しようとするという形で進む。この「私」はモーム自身、ストリックランドは画家のゴーギャンがモチーフであると言われるが、あくまでモチーフであつて伝記的小説などではない。大学生の息子にとっては、読み終えてから四年ほど経過した現在においても鮮烈に印象を残している作品であるようだ。それは周囲の人間の人生をも破壊していくストリックランドの破滅的な生き方や人間性が、一般的な社会規範から到底受け入れられるようなものでなく、感情移入したり展開に納得したりすることが少なかったからで、読むべきではなかったかもしれないと考えたほどであつたようだ。

訳者もあとがきで書いているが、本作は恋愛小説でもなく冒険小説でもなく壮大なロマンスでもない。まして気の利いたミステリーでもない。しかし、一気に読者を引き込んで最後まで放さない魅力と迫力がある。今回改めて読んでみて私もまったく同感、一気に引き込まれてしまった。切れの良い台詞の応酬で登場人物の立場や個性を際立たせる構成、登場人物の絡ませ方や挿話の入れ方などはさすが劇作家と思わせる。本作から20代の息子は「信念とそれを霞ませるもの」を感じたようであったが、5代のわたしには本作がもっと人間を根源的に突き動かす「衝動」や「本能的ななにか」をテーマにしているように感じられる。人生の経験を少し積んで改めて読み直した時、また新しい鮮烈な印象を与えてくれるよい小説であるように思う。

※図書館報『ぱびろにくす』125号にご寄稿いただきました。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉933.7||M 91240684

〈梅田分館〉933.7||M 97240147

〈枚方分館〉080||S 98240356



常期学園

みらいを つくる つたえる まもる。

大阪工業大学

OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY